

教養教育カリキュラムにおける情報教育と 入学時の新入生向け説明会

1 はじめに

ICT 基盤センターは、教養教育カリキュラムにおいて、情報科学科目の責任部局を担うとともに三つの全学モジュールを提供している。本稿では、これら教養教育に関する活動について取り上げる。まず、初年次必修の情報科学科目「情報基礎」について、その授業内容および情報セキュリティ特別授業について報告する。次に、全学モジュール科目の授業における ICT の活用やアクティブラーニング等の取り組みについて述べる。

また、当センターは PC 必携化の推進活動も行っており、そのうち新入生向けの支援活動についても取り上げる。新入生が早期に本学の情報環境に接続できるように実施した説明会について述べる。

2 情報科学科目「情報基礎」

2.1 開講状況と授業の内容

情報科学科目「情報基礎」（2 単位）は、全学部の 1 年生が受講する教養基礎科目の一つで、全 29 クラス（昼間 28 クラス、経済学部夜間主 1 クラス）開講された。経済学部 3 クラス（夜間主クラス含む）と医学部医学科 2 クラスを除く、24 クラスを ICT 基盤センターの教員が担当した。統一的な情報教育を行えるように、2012 年度から科目標準シラバスを設定しており、2014 年度にはノート PC 必携に対応するために改定した。

2016 年度は、2013 年度に改定された高等学校の学習指導要領の教育を受けた生徒が入学してきた。学習指導要領の改定による習熟度の影響について注視していたが、過去の年度変化の範囲内であると受け取れたため、授業内容については特に変更してしていない。標準構成を表 1 に示す。長崎大学の PC 環境、情報セキュリティ、情報の検索・活用と情報倫理、情報のデジタル化、ネットワークの仕組み、プレゼンテーション、文書作成、表計算、HTML、総合演習からなる。

表 1 情報科学科目「情報基礎」の授業内容

テーマ	回数	授業内容
ガイダンス	1	授業の概要及び大学の ICT システムの説明、必携パソコンの初期設定及び無線 LAN 接続の実習
PC と LACS の活用 1	1	Microsoft Office365, 他アプリケーションソフトウェアのセットアップ等
PC と LACS の活用 2	1	LACS の機能の紹介と操作実習, 電子メールの操作実習

情報セキュリティ、情報倫理、法の関わり	1	(情報セキュリティ関連) 情報セキュリティの定義、個人・組織がとるべきセキュリティ対策、ICTに関するストレス対策 (情報倫理、法律関連) 情報倫理、個人情報保護等
表計算	4	Microsoft Excel の基礎、数式、セルの参照、表の書式設定、関数、複数ワークシートの利用、データの検索・並び替え・抽出・集計、クロス集計、グラフ等
情報のデジタル化	1	デジタル化の意味、数字・文字・音声・画像のデジタル化
文書作成	2	Microsoft Word の基礎、文字と段落の書式、ページ設定、オブジェクトの操作、表の作成、スタイル等
コンピュータとネットワークの基礎	1	コンピュータの構成、オペレーティングシステムの基礎、ネットワークの構成
ネットワークの利用と情報の検索	1	WWW、情報の検索、著作権
プレゼンテーション	1	Microsoft PowerPoint の基礎、資料作成上の留意点、プレゼンテーションでの活用等
総合演習	1	まとめ、振り返り

3 情報セキュリティ特別授業

学生の可搬型 PC 必携の制度化を機として、2014 年から全新生入生を対象とした「情報セキュリティ特別授業」を毎年 4 月に実施してきた。この特別授業の内容については、SNS を含めたインターネット利用に関わるセキュリティ改善およびストレス面での健全利用を目的として構成している。具体的な例を示しながら、危険性を周知することにより、予防につながることを期待している。

3.1 授業の内容

日々新たな脅威が出現していることから、IPA が提供する「情報セキュリティ 10 大脅威」等を参考にして、取り上げる項目を毎年見直している。また、大学入学後に一人暮らしを始める等、生活形態が大きく変化した学生は多い。こうした背景を考慮して、2018 年度の講義は以下の構成とした。

1. 特別授業の目的
2. インターネットに関わる脅威とセキュリティリスク
3. 日常から注意すべきセキュリティ対策

情報セキュリティ 10 題脅威 2018 (情報処理推進機構)

パスワードの適正な管理

セキュリティホールの解消

セキュリティ対策ソフトのインストールと更新

フィッシング詐欺への対策

ワンクリック不正請求への対策

生活上の盲点への対策

SNS 等利用における注意点 (プライバシー情報の意図せぬ公開)

4. ICT の健全な活用に向けて

ネット依存が身体面・心理面に及ぼす悪影響

トラブル発生時の回避行動

3.2 実施状況

すべての初年次学生が出席できるように、初年次必修科目「初年次セミナー」の開講時間帯 (月曜日、火曜日、木曜日、金曜日の 5 校時) に開講した。対象学生を中部講堂に集め講義を聴講させた。5 校時に別科目の授業があるクラスに対しては 4 校時に開講して対処した。経済学部夜間主コースに対しては「情報基礎」の一回分の授業として、片淵キャンパスにて開講した。2017 年度および 2018 年度ともに初年次学生の出席率は 97.5% に達しており、情報科学科目「情報基礎」の授業での指示に加えて、教養教育事務および各学部学務係からの案内が徹底し、この特別授業の実施を学生に周知できたのではないかと推測される。付録として、両年度の実施報告書を付記する。

3.3 振り返り

情報科学科目「情報基礎」の一部のクラスでは、特別授業の振り返りレポートを書かせている。課題として、「普段、無意識に取っている行動の中で改めなければならないと思ったこと」、「自身のインターネット利用環境 (PC、スマホ、自宅無線 LAN) に対策を講じる必要があると思ったこと」等を報告させ、学生自身が日々の行動を改善していくように誘導した。なお、この取り組みについては文献[1]に詳述している。

[1] 上繁義史, 丹羽量久, 柳生大輔, 古賀掲維, 鈴木 斉, 一藤 裕: 「インターネットに関わるセキュリティ改善および健全利用をねらいとした新入生向け特別授業の実践」, 国公立大学情報システム研究会, 大学情報システム環境研究, Vol.21, pp.75-83, 2018 年 7 月. (<http://www.is-ken.gr.jp/wp-content/uploads/ispaper21-2.pdf>)

4 全学モジュール

4.1 全学モジュールの各科目における ICT 活用およびアクティブラーニングの取り組み

当センターは、モジュール制度が始まった 2012 年度からテーマ「情報社会とコンピューティング」を提供してきた。2018 年度は、全学モジュール I 「暮らしに活かす情報技術」、全学モジュール II 「情報社会を考える」と「ICTの仕組みと活用法」を提供することになった。計九つの全学モジュール科目があり、それぞれの目的に応じてさまざまな授業方法を組み込んでいる。実施状況を大学教育イノベーションセンター発刊の「全学モジュール・ニュース」に投稿しているため、ここでは、2017 年度と 2018 年度発刊の計 4 編の掲載記事を以下に転記する。

(1) 第 133 号 (平成 30 年 2 月 26 日) ⑪「暮らしに活かす情報技術」 報告者：上繁 義史

～クォーター化への対応～

平成 29 年度、モジュール「暮らしに活かす情報技術」における最大の課題はクォーター制への対応でした。本モジュールは以下の 3 科目から構成されており、第 3 クォーターに情報技術の活用スキルを中心とした科目を配置し、第 4 クォーターに情報(技術)活用の基礎となる情報セキュリティの科目を配置することにより、情報技術の効果的・効率的な利活用とその安全についての知識・スキルを総合的に学修できるように配慮しました。3 科目とも月曜日もしくは火曜日の第 1・2 校時連続で開講いたしました。

各モジュール科目における特徴をご紹介します。

まず第 3 クォーターの「情報の活用」においては、従前から必修科目「情報基礎」のアドバンス版としての話題を取り上げてきており、昨年度まで Semester 制のもとで実践してきた内容（文章表現・文書構成、グラフ等によるデータの可視化など）を、受講者の負担に配慮する形で再構成しました。各回とも座学（前週演習課題および予習課題の解説、基礎知識および演習課題の概説）＋演習＋座学（演習の概説）の構成で実践し、受講者同士での知識共有を含めた演習時間に多く時間を割くようにしました。2 コマ連続授業に際しては、校時に捉われずに短い間隔で休憩を挟むなど、受講者の集中力に配慮しました。一方、毎回の授業の開始時に前週の演習課題および予習課題に関する学生からの質問にフィードバックしていましたが、クォーター制への移行によりその回数が昨年度と比較して半減してしまいました。

同じく第 3 クォーターの「計算機の科学」においては、様々なコンピュータの構成を基礎とし、プログラミングの入門として解決法、すなわちアルゴリズムの考え方を教授しつつ、与えられた課題に対する具体的なアルゴリズムの探求・図式化およびプログラミング言語 Ruby によるプログラム作成の演習時間を従前より多くとるようにしました。これにより解決手順を適切にアレンジする論理的思考の発展に努めました。

第 4 クォーターの「情報社会の安全と安心」においては、従前座学編（10 回）とグループ学修編（5 回）の二部構成でしたが、本年度は座学編に特化し、座学の内容も一部新規のものに差し替えました。授業は座学＋授業内容のまとめ（各人の学修）＋グループディスカッションお

よびプレゼンテーション（グループ単位での学修）を基本として実施しました。授業内容のまとめでは、自身のまとめをグループのメンバーに見せてコメントを書いてもらい、さらに修正し、自己評価してもらうことで、理解状況を把握させるようにしました。グループディスカッションでは、座学の知識を前提とした議題を与えて、グループごとに短時間で議論しプレゼン資料をまとめさせ、授業の最後の時間帯に2グループずつ発表してもらいました。

全体としては、これまで作り上げた授業をクォーター制での実施に向けてアレンジしていく中で、「アクティブラーニング等を用いた自律的、主体的な学修」を中心に据えた結果、平成29年度の時点では（1）教授内容の精選、（2）演習時間の確保、（3）受講者の集中力の維持を優先する形となりました。クォーター制での実践における課題としては、授業内容・教授方法などの改善や授業時間外における適切な学修への配慮（適量の予習・復習課題を課すなど）などを考えています。

（2）第145号（平成30年8月27日）⑫「情報社会を考える」 報告者：丹羽量久

このモジュールで開講している3科目「情報と社会」、「ソフトウェアの利用技術」、「情報化の役割と課題」ではそれぞれ異なる授業方法を取り入れています。本号では、それらのうち、クォーター制導入に伴って新たに考案した授業方法を適用した科目「情報と社会」を紹介します。

この科目「情報と社会」ではさまざまな分野における「情報」の関わりを学べるように、4名の教員によるオムニバス型授業として設計しています。平成29年度から2コマ連続となった授業にアクティブラーニングを導入するにあたって、長くなった授業時間を有効に使えるように学生同士の相互評価を組み込んだ新たな学習課題を設計し、以下のような流れで各週の授業を実践しました。

最初に、①：教員が当該授業のテーマに関係する「問いかけ」を提示し、当該授業のテーマに関係した講義を行います。その後、②：学生たちは、その「問いかけ」に答えるべく、講義内容を参考にしながら、インターネット上で関連情報を検索し、得られた情報を取捨選択・整理して、自身の考えを加えた資料にまとめます。次は相互評価の段階で、③：まとめた資料を他の学生と交換して、お互いに同意・非同意の両立場から評価し、助言・反対意見等を資料に追記します。③を二人分繰り返した後、④：教員は各学生の資料に目を通し、コメントを全員に聞こえるようにフィードバックします。⑤：学生たちは③と④を参考にして、考えを改善し、発表スライドを作成します。この改善内容は、修正する場合もあれば、反論する場合もあります。最後に残った時間を使って、⑥：学生たちにプレゼンテーションさせます。

この授業の総括として、自身の学習成果と取り組みについて振り返らせたところ、上記の相互評価が他者との意見交換や協働に寄与し、学生たちの多くは、この学習課題により批判的に考える機会を活用でき、同時にさまざまな汎用的能力が身についたと実感していたことがわかりました。

一方で、自分の考えをきちんとまとめる材料となる新しい情報を得るには長い時間が必要ですが、授業時間内に学習課題を終わらせるためにはこの情報検索に十分な時間を用意できない状況でした。2回目の開講となる平成30年度は、情報検索の難易度を少し低くするために、講

義内容にあらかじめ具体的な手がかりを仕込んだり、学生たちの状況に応じて情報提供したりする等の工夫について検討していく予定です。

この取り組みの詳細については、以下の文献[2]にまとめてあります。先生方のご参考になれば幸いです。

[2] 丹羽量久, 正田備也, 福澤勝彦, 三根眞理子: 「相互評価を組み入れた学習課題による批判的思考力育成の可能性」, 情報コミュニケーション学会第 15 回全国大会発表論文集, A3-5, pp.150-153, 2018 年 3 月. (<http://hdl.handle.net/10069/37992>)

(3) 第 146 号 (平成 30 年 9 月 10 日) ⑭ 「ICT の仕組みと活用法」 報告者: 古賀掲維

モジュール II 「ICT の仕組みと活用法」は、「情報通信とコンピュータネットワークのしくみ」、「情報化時代の仕事術」、「プログラミング入門」から構成されています。今回のモジュール・ニュースでは、本モジュールの授業科目のうち、「情報通信とコンピュータネットワークのしくみ」、「プログラミング入門」について紹介します。

情報通信とコンピュータネットワークのしくみ (担当教員: 柳生大輔)

本科目の受講者数は例年 20 名前後です。このため「グループワーク」ではなく、全員に参加してもらい各自の考え等の集約を毎回 1 つ以上行っています。たとえば「電話を「かける」とは?」と発問し、LACS に入力してもらいます。全員の入力内容を、すぐにプロジェクトで表示します。問題は正否を問うものではありません (答えがないものも多くあります)。いろいろなアイデア・多面的な考え方を共有させ、内容の本質を (暗記ではなく) 理解しやすくすることを意図しています。

また、知識の定着を意図し、授業時間外に「まとめ」として、「『〇〇』について、自分の言葉で説明 (字数制限)」「印象に残った項目・内容をその理由とともに記述」「試験の候補問題を作成」を LACS で入力してもらっています。「まとめ」での受講者から疑問やリクエストには原則応えるようにしています。

地域課題として、「離島における通信事業運営のあり方 (税金、事業者・受益者負担)」というテーマを取り上げました。受講者の興味や意識が非常に高かったように見えます。開講形式がクォーター化により、授業そのものについては進めやすくなりましたが、時間をかけて考えてもらうという課題が出しにくくなり、1 週の授業内容が増えたことから、受講者のほうも表面的にノートを取る・覚える傾向が強くなっているように見えます。また、1 週でも欠席した場合に、リカバリーが大変なようです。

プログラミング入門 (担当教員: 古賀掲維)

本科目は、Web ブラウザで動作するアプリ (Web アプリ) を題材として、プログラミングについて学ぶ科目です。Web アプリを作成するために、HTML、CSS、JavaScript という言語を学んでいきます。この授業では、知識の修得は時間外学習 (予習) として行い、授業中は修得した知識を活用して課題に取り組むこととしています。予習内容は、それぞれプレゼンテーション資料

形式で作成し、毎回 LACS に提出します。また、グループ分けを行い、①与えられた課題をグループの全員が達成できるようにお互いに助け合う、②一つの課題にグループ全員で助け合いながら取り組む、③グループで成果物のプレゼンテーションを行う、という学習も行っています。昨年度は、学生それぞれが保有している必携パソコンを用いて、Web アプリの開発環境を構築し、プログラミング学習を行ったのですが、学生が保有するパソコンのスペック(主にディスク容量)によっては、環境の構築が難しい場合もありました。今年度は、学生の保有パソコンのスペックの差異への対応を検討してみたいと考えています。

(4) 第 155 号 (平成 31 年 3 月 25 日) ⑩「暮らしに活かす情報技術」 報告者：上繁 義史

このモジュール「暮らしに生かす情報技術」は情報基礎(1 年前期、全学部必修、2 単位)から発展して、情報技術にフォーカスした話題を扱っている。科目としては、計算機の仕組みとプログラミング基礎を扱う「計算機の科学」、情報の可視化の発展的技法を扱う「情報の活用」、情報セキュリティの話題を扱う「情報社会の安全と安心」を提供している。本項では、報告者が科目責任者を務める「情報社会の安全と安心」にフォーカスして、クォータ制に移行後 2 クール目を終えて、授業の形態やその実施上の所感について述べる。

この授業は座学形式の授業で、第 4 クォータの火曜日第 1・2 校時に実施された。基本的な流れとしては、座学を 80 分前後行い、授業内容のまとめと他の受講者からのコメントを 20 分前後、グループディスカッションとプレゼンテーションを 70 分前後行った。

座学の受講態度と授業内容のまとめについては、概ね良好で当方の想定通りに進行した。授業のまとめについて、他の受講者からコメントを書いてもらうことで、異なる視点の意見を得る機会となったと考えられる。グループディスカッションにおいては、授業内容と関連する議題についてグループ単位で議論させ、プレゼン資料を作成させた。毎週 1、2 グループ程度が発表を行い、その後の質疑応答により学習を活性化することを企図した。グループディスカッションにおいて、回を追うごとに議論の内容が深まる傾向があったが、プレゼン後の質疑応答において、当方が質問者を指定せざるを得ない場面が大半で、授業の活性化の在り方について課題が残ったと考える。次年度はグループディスカッション後の授業の活性化の手段について改善を加えたいと考えている。

5 新入生向け大学情報環境接続説明会

新入生は、NU-Web への履修登録や授業での LACS 利用等が入学後すぐに必携パソコンを利用する機会がある。混乱を回避するためには、新入生が早期に必携パソコンから学内ネットワークに接続できるように準備しておく必要がある。一方、情報科学科目「情報基礎」では、SSID の使い分け等を含めた学内無線 LAN の合理的な利用方法を講義と演習により習得させている。しかしながら、「情報基礎」は週 1 コマの開講であるため、たとえば、履修登録の締切日に間に合わない可能性があり、授業に組み込んだ必携化対応が十分に機能しないことが危惧された。そこで、入学直後に全入学生を対象として、必携パソコンのセットアップ状態の確認、本学情報通信環境への接続方法等の説明・実習を行う説明会を実施するに至った。

5.1 説明会の内容

説明会では表-2 に示す項目を取り上げた。説明を聴講するだけでは十分に理解できないため、自パソコンを持参させ、操作手順書について説明を受けながら、チェックシートに沿って自身が操作して各事項を確認する形式をとった。確認項目を必要最小限に絞っているが、説明会 90 分間の限られた時間内ではすべてに取り組ませるのは難しい。このチェックシートを持ち帰らせ、情報科学科目「情報基礎」の授業にて、各クラスの担当教員がフォローできるようにした。

表-2 チェックシートの確認項目

チェック項目	内 容
ノートパソコンのセットアップ状況	OS のエディション, バージョン
アカウントの設定状況	アカウント名, マイクロソフトアカウント or ローカルアカウント, 管理者権限, パスワード設定の有無
Microsoft Office について	インストール状況, バージョン
大学無線 LAN の確認	長大 ID, アクセスポイントの確認と接続, 統合認証システムへのログイン
電子メールについて	自分の電子メールアドレス, 電子メールを利用する三つの手段 (操作なし), 電子メールの送受信, 添付ファイルの操作
ウイルス対策ソフトについて	起動状況, 種類, 定義ファイルの更新
Windows Update の状況	実行方法, 最終更新日

5.2 実施状況

実施日程については、教育支援課および各学部の学務係と相談しながら、入学時に催される行事の合間を縫って学部別に設定した。ただし、教養教育オリエンテーションで仮学生証を配布するまで、入学生は自身の学生番号を把握できない。2017 年度ではこのオリエンテーション前日に説明会を実施した新入生は Wi-Fi アクセスポイントとの接続までしか演習が行えず、統合認証システムへのログインができなかった。2018 年度は、教育支援課と情報企画課の協力を得て、仮学生証を教養教育オリエンテーション前日に配布し、参加者全員が Wi-Fi アクセスポイントに接続し、統合認証システムにログインする環境を整えた。

6 おわりに

本稿では、2017 年度と 2018 年度における ICT 基盤センターが関係する情報教育の取り組み状況を紹介した。情報科学科目「情報基礎」、新入生向けの情報セキュリティ特別授業、全学モジュール科目の三つに分類して、それぞれで取り上げたテーマや内容、授業内外での ICT 活用方法、アクティブ・ラーニングの実現方法等について述べた。また、2017 年度からは、早い時期に新入生が自身のノートパソコンから本学の情報環境を利用できるように大学情報環境接続説明会を実施した。この説明会の実施において明らかになった問題点と解決策について述べた。

2017年4月26日

情報セキュリティに関する特別授業の実施報告

ICT 基盤センター

すべての1年生を対象として、入学直後の4月第三週に「情報セキュリティに関する特別授業」を計6回実施した。概要は以下の通りである。

目 的

大学入学により生活形態が大きく変化したと考えられる新入生に、SNS等のインターネット利用に関わる問題、およびその利用過多による身体面・心理面への悪影響についての脅威を正確に理解させる。そして、適切な対策を講じる必要性を認識させ、予防につなげる。

講義内容

この特別講義では、昨今の情報セキュリティに関する事件等を参考にしながら、その内容を定めており、今年度は以下のことを取り上げた。また、メンタルストレスとネットワーク依存の関係も重要であるため、毎年組み込んでいる。

1. 特別授業の目的
2. インターネットに関わる脅威とセキュリティリスク
3. 日常から注意すべきセキュリティ対策
 - 情報セキュリティ 10 題脅威 2017 (情報処理推進機構)
 - パスワードの適正な管理
 - マルウェア対策
 - フィッシング詐欺
 - ワンクリック不正請求
 - 生活上の盲点
 - 無線 LAN 対策
 - 偽セキュリティ対策ソフトの存在
 - SNS 等利用における注意点 (プライバシー情報の意図せぬ公開)
4. ICT の健全な活用に向けて
 - ネット依存が身体面・心理面に及ぼす悪影響
 - トラブル発生時の回避行動

講義担当

ICT 基盤センター 上繁義史 准教授

実施日時・場所

今年度は、実施時間帯を初年次セミナーの開講に合わせた。また、5校時に授業があつて参加できないクラス向けに別途開講した。

1. 4月10日(月)第5校時：中部講堂
2. 4月11日(火)第5校時：中部講堂
3. 4月13日(木)第4校時：C-16教室
4. 4月13日(木)第5校時：中部講堂
5. 4月13日(木)第7校時：新館201 (片淵キャンパス)
6. 4月14日(金)第5校時：中部講堂

参加状況

1年生の参加者数は計1,655名であつた。学部別参加者数の内訳を表-1に示す。

昨年度の参加者数1,572名と比較して、かなりの改善がみられる。今年度は「情報基礎」の授業での案内に加えて、教養教育事務および各学部からの案内が徹底し、特別授業受講の周知を図ることができたのではないかと推測される。

表-1 特別授業への出席状況 (学部別)

	1年生				計	上位年次
	4/10	4/11	4/13	4/14		
多文化社会学部		103			103	2
教育学部	165	70	3	1	239	2
経済学部	134	134			268	3
経済学部 (夜間主)			67		67	2
医学部 (医学科)			113	4	117	
医学部 (保健学科)			99	2	101	1
歯学部			42	7	49	1
薬学部			79	1	80	
工学部			183	205	388	1
環境科学部				129	129	6
水産学部		114			114	2
計	299	421	586	349	1,655	20

※ 出席確認：今年度は入室時に紙の出席票を配付し、退室時に回収した。



写真-1 授業の様子

学生の反応

特別授業では、講師の話しに合わせて配付された冊子や教科書を確認したり、メモをとったり、うなずいたりする学生が多かった。特に、Facebook 利用者のプライバシー情報がデフォルトでは「公開」に設定されていることに触れられると、多くの学生が真剣にスクリーンを凝視していたのが印象的である。

科目「情報基礎」では、クラスによっては5月初旬からこの特別授業の振り返りに取り組ませていく。昨年度は特別授業の効果がすぐに現れた事例も多々あり、今年度も引き続き「情報基礎」の授業でフォローしていく。

以上

(文責：丹羽量久)

2018年4月25日

情報セキュリティに関する特別授業の実施報告

ICT 基盤センター

すべての1年生を対象として、入学直後の4月第三週に「情報セキュリティに関する特別授業」を計5回実施した。概要は以下の通りである。

目 的

大学入学により生活形態が大きく変化したと考えられる新入生に、SNS等のインターネット利用に関わる問題、およびその利用過多による身体面・心理面への悪影響についての脅威を正確に理解させる。そして、適切な対策を講じる必要性を認識させ、予防につなげる。

講義内容

この特別講義では、昨今の情報セキュリティに関する事件等を参考にしながら、その内容を定めており、今年度は以下のことを取り上げた。また、メンタルストレスとネットワーク依存の関係も重要であるため、毎年組み込んでいる。

5. 特別授業の目的
6. インターネットに関わる脅威とセキュリティリスク
7. 日常から注意すべきセキュリティ対策
 - 情報セキュリティ 10 題脅威 2018 (情報処理推進機構)
 - パスワードの適正な管理
 - セキュリティホール解消
 - セキュリティ対策ソフトのインストールと更新
 - フィッシング詐欺への対策
 - ワンクリック不正請求への対策
 - 生活上の盲点への対策
 - SNS等利用における注意点 (プライバシー情報の意図せぬ公開)
8. ICTの健全な活用に向けて
 - ネット依存が身体面・心理面に及ぼす悪影響
 - トラブル発生時の回避行動

講義担当

ICT 基盤センター 上繁義史 准教授

実施日時・場所

実施時間帯を初年次セミナーの開講校時に合わせた。なお、夜間主コースについては、7校時開講の情報科学科目「情報基礎」に組み込んだ。

7. 4月16日(月)第5校時：中部講堂
8. 4月17日(火)第5校時：中部講堂
9. 4月19日(木)第5校時：中部講堂
10. 4月19日(木)第7校時：経済学部本館12 (片淵キャンパス)
11. 4月20日(金)第5校時：中部講堂

参加状況

1年生の参加者数は計1,670名であった。日程ごとに学部別参加者数の内訳を表-1に示す。昨年度に引き続き、ほぼ全員を参加させることができた。初年次セミナーの開講時間帯を利用することで、「情報基礎」の授業での案内に加えて、教養教育事務および各学部からの案内が徹底し、特別授業受講の周知を図ることができたのではないかと考えられる。

表-1 特別授業への出席状況 (学部別)

	1年生				計	上位年次 /大学院
	4/16	4/17	4/19	4/20		
多文化社会学部	40	59		3	102	1
教育学部	142	94		2	238	1
経済学部	83	185			268	5
経済学部 (夜間主)			59		60	3
医学部 (医学科)			117	2	119	1
医学部 (保健学科)			102		102	1
歯学部			41	6	47	
薬学部			85		85	
工学部			226	171	397	4
環境科学部				135	135	5
水産学部	117		1		118	
計	382	338	631	319	1,670	21

※ 出席確認：学生証をICカードリーダーにタッチさせて確認した。



写真－1 授業の様子

学生の反応

特別授業を聴講しながら、講師が取り上げる話題に合わせて、教科書や情報セキュリティに関する小冊子やの該当箇所の記述を確認したり、注意点をメモしたり、何度もうなずいたりする学生が多数いた。なお、この小冊子については例年入場時に配布している。

科目「情報基礎」のクラスによっては、5月初旬から「特別授業の振り返り」に取り組ませている。昨年度はこの振り返りへの記述内容の分析から、「パスワード」の取り扱いに不安感が強いという傾向を把握でき、今年度配布する小冊子の記事内容に反映させておいた。今年度、特別授業で「パスワード」に関係する事項を取り上げた際には、多くの学生が真剣にスクリーンを凝視していたし、明らかに表情を変えた学生が複数いたことを講師が確認している。

毎年、情報科学科目「情報基礎」ではこの特別授業をフォローしている。学生が関連事項について相談に来る等の特別授業の効果がすぐに現れた事例が多くあることから、今年度も同様にフォローを継続する。また、上述の「パスワード」の取り扱いを重要事項として捉え、さらなる指南の必要性について検討する予定である。

以上

(文責：丹羽量久)